

■ 合格した自分に会いに行こう ■

この時期、高校は緊張感のある日が続く。先週は公立高校の入学試験だった。本校を志願する受験生が緊張の面持ちで門をくぐる。運営面でミスがないように万全を期しながら、受験生が力を発揮できるようにと心を配った。

平行して、国公立大学の前期試験の合格発表が次々と開く。笑顔の卒業生が合格を報せに来校する。指導に関わった者には、喜びを分かち合うこの瞬間がたまらない。一方で、昨日の後期試験まで受験が続いた者もいる。諦めずに受験をやり切ったことに自信を持ってほしい。後は天命を待とう。

合格という境目は不思議なもので、先日まで受験生という挑戦者だった者を、大学合格者という成功者へと変え、苦しみながらも挑み続けたこれまでの長い月日の語り部にする。手元にある1年前の合格体験記を読んでみた。

まずは多くが授業、小テスト、定期試験、模試などの学校での勉強の大切さを指摘する。「予習→授業→復習の学習サイクルが確立できれば怖くない」「基礎固めは授業にある。粗末にするな」「受験で最も大切なのは、当たり前なことを当たり前毎日続けること」。

後悔や反省も少なくない。「スタートは早ければ早いほどいい」「苦手科目を先延ばしにしてしまった」「模試でよい結果が出て安心してしまった」。誰しもが「楽をしたい、嫌なことはしたくない」という本能とせめぎ合っている。

伸びていく生徒には先生の存在も大きい。「先生に質問するのはお勧めの勉強法」「先生の『試験直前で成績はグンと伸びる』という言葉を信じた」「先生のアドバイスは合格への最適解を示してくれている」。依存するのではなく、受験勉強を自立させるための足がかり。まさに、スポーツ選手にとっての優れたコーチのようである。

未来を切り拓こうと格闘した者だけが持つ、先輩の重い言葉にはっと気づく者もいる。

今年新潟大に合格したBさんは、昨年の卒業生講演会で大阪大に合格した先輩の言葉が胸に刺さった。「一番いけないのは、自分のせいではなく、環境のせいにする事」。自分のことをさておいて、うまくいかないのを自分外のせいにしていたことに気づいた。それから、受験勉強への姿勢ががらりと変わる。分からないところは積極的に質問に行くようになった。

昨日は大学に合格した卒業生を招いての卒業生講演会が行われた。合格者の生の声は在校生にどう響いたか。これからの在校生の変容が楽しみだ。

バトンを渡された皆さん、さあ、出番です。これからの自分との長い闘いを通して、合格した自分に会いに行こう。

